

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 すみれ)

事業所番号	O670101161		
法人名	医療法人 東北医療福祉会		
事業所名	フラワー小姓町		
所在地	山形県山形市小姓町7番15号		
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 11 日	開設年月日	平成 14 年 12 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様それぞれの個性や意思を尊重しながら、明るく笑顔が溢れる環境、家庭的な雰囲気づくりを重要視しています。非日常的な場ではなく、居心地の良い空間を提供しながら、入居者様一人一人の喜びや悲しみに寄り添い、穏やかに安心して生活を送れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して13年、基本理念と、毎年職員が協議して定めるユニット目標が大切にされている事業所である。職員は特に、ユニット目標の「利用者様の気持ち」「日々穏やかに」「笑顔で」を基本に、加えて「家族的な共同生活」「したいこと・できること」を「明るく支える」こと等に留意して、一人ひとりの活動を支援している。また、都市部にあって協力を得ることが難しい環境の中でも、積極的に働きかけて、地域等と様々な参加・交流活動を実施しながら、利用者が「地域の中で」生活して実感を得られるように支援している。そして、設置法人や法人関係施設との連携を大切に支援している事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/O6/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3-10		
訪問調査日	平成 28年 11月 14日	評価結果決定日	平成 28年 11月 29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームとユニット独自のものと掲示している。常に確認できる所に掲示し、ユニットの個性を活かしそれをケアに反映させている。	「尊厳や権利を守り地域の中で最後までその人らしいあり方をめざす」という基本理念等を踏まえて毎年ユニット毎に目標を作っている。これらを玄関等に掲示したり、ユニット会議や朝礼で唱和したりして支援に繋げている。職員は、特に、ユニット目標の中の「利用者様の気持ち」「日々穏やかに」「笑顔」という言葉を大切に支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	玄関を開放し、どなたでも立ち寄って頂けるようにしている。入居者様との散歩時は地域の方々にあいさつしたり、近所の商店に買い物に行く等して近隣の方と交流できる様努めている。	町内会に入会し広報誌も配布するなど、日頃から地域の一員となるよう努めている。地域の総会や資源回収に参加したり、祭りには露店を出す一方、小学生の体験を受け入れたり、事業所行事に参加を頂いたり、歌や踊りのボランティアの訪問もある。散歩や際には、挨拶も交わし、一員として交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの広報誌を作成し、地域の方々に配布し、ホームの生活の様子や取組を理解して貰えるように取り組んでいる。また、運営推進会議を通して、町内会の方々と意見交換している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、町内会長、地域包括支援センターの方々からの意見を頂き、反映させている。また、運営推進会議を開催した結果を職員で共有し改善に努めている。	2月に1回、家族代表・町内会長・包括センター職員・民生委員と職員で運営推進会議を開催し、活動状況・事故・外部評価等を報告したあと、自由な意見交換を行っている。出された意見等は、ユニット長会議・ユニット会議で伝達するなど、意見をサービス向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、介護相談員の来訪があり、サービス向上のための意見交換を行っている。市町村との協力関係を築けるよう努めている。	毎月、2名の市委嘱介護相談員の訪問を受け、利用者の意見等を訊いていただいている。また、認定申請で職員の訪問を受けた際などに相談・情報交換を行って、相談できる環境・協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中はカギをかけずに自由に入出りできるように解放している。身体拘束においては、ユニット会議において、職員間の認識の共有を図っている。また、外部の研修にも積極的に参加し、理解を深めていきたい。	月例のユニット会議において、マニュアルの研修を実施したり、月例の事故研修委員会で検討された具体的な事例等を題材にして話し合いを行ったりして認識の共有化を図っている。センサー等の必要な場合・方法については十分に検討し合っている。また、外出・帰宅願望のある利用者は、現在はいない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	声掛けや支援方法を職員間で話し合い、身体的虐待はもちろんだが、心理的虐待についての認識も共有しながら、虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間でも知識習得は大分ばらつきがあると思われる。内部研修の機会を設けたり、外部研修に積極的に参加する必要がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間をとり説明を行っている。広報紙に写真を掲載する事などについては詳しく説明し同意を得ている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月介護相談員の来訪があり、外部者へ表せる機会を設けている。家族には、面会来所時や手紙などで近況報告を行い、運営推進会議、家族会、懇談会、行事等で家族から意見を頂いている。	利用者については、日頃の会話における何気ない言葉を大切にしている。市の介護相談員の来訪の際にも訊いていただいている。家族については、毎月担当者が作成する近況報告で話し易い環境を作りながら、面談や、家族会総会・家族参加行事の際に、意見・要望お聞きしている。意見箱も置いている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会議では運営についての報告をしている。質問や意見できるようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を勧めており、資格取得したものには資格手当が支給になる。資格取得を目標にしている職員は多い。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や力量に合わせて外部研修会の参加の機会をつくっている。新人職員にはユニットの職員がつき指導している。	基本的には、事業所内の事例に基づく各種検討会を大切にしている。また、経験年数や力量に合わせて、法人の年間計画に基づく研修、敷地内法人設置施設の合同研修、県GH連絡協議会等の研修・交換研修に参加させ、知識技能の向上に努めている。OJTを導入し、新採用職員の研修の充実を図っている。また、前回の目標達成計画記載事項のさらなる実施も考えている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会の研修や交換研修会に参加している同業者ならではの相談やアドバイスをもらうなどして交流を図っている。参加者は後日、他職員に報告を行っている。	県グループホーム協議会主催の研修会や交換実習に積極的に派遣したり、法人設置の隣接施設との合同研修会に参加させたりし、職員のネットワークの向上を図って、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接などで本人の現状を把握し、本人の思いや不安に耳を傾け、スタッフ間で共有しながら、安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安や要望など聞きながら関係作りを行い、ケアプランにも反映させている。また、安心できるよう、何でも言えるような雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の意向を確認し、ホーム内で提供可能なサービス以外でも、本人の状態を勘案しながら、必要であればデイケア等のサービスを利用している方もいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、洗濯物干し、塗り絵、新聞たたみ、花の水やりなど出来る所を手伝って頂いたり、特技を生かした手作業等を職員も寄り添いながら共同で行い、信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回のお便りの送付、面会時等にご本人様の生活状況を伝えている。また、お墓参り等の外出の支援や、可能な限り、受診の協力も依頼しながら、家族と共に支えていくという関係を築けるよう努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの情報や、本人との日常の関わりの中からヒントを得ながら、家族以外の方でも気軽に来所して頂けるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士が関わりが持てるように支援しています。また、利用者同士でも関係がうまく築けている部分もあるので、その関係が継続できるように見守っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族より相談を受けるケースもあるので、その際はフォローしている。今後一貫した取り組みとして、色々な方面より意見を聞き検討していきたい。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、どのように暮らしたいか、何をしたいか、要望に添って話し合い考えるようにしている。意思表示が困難な方には、ホームでの様子や、生活歴、家族からの情報等を踏まえ、本人主体となるような関わりがもてるよう努めている。	利用者については、日々の会話から感じ取れるものを詳しく記録している。家族については、面会や家族会・行事の際に意見要望を聞き、記録している。判断が難しい場合は、話し合いながら、本人主体の支援のあり方を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接時に本人や家族から生活歴、生活スタイル、趣味やサービスの利用状況等の聴き取りをしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄表やバイタルチェック表を用いて健康管理を行っている。また、日常の様子も記録に残し、個々の生活リズムや得意な事を把握しながら支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中での気付いた事、考えをユニットで話し合い、統一したケアができるようにしている。また、本人、家族、主治医などの意見も取り入れながら、個々が良い生活ができるように作成している。	概ね3か月に1回計画を見直している。日々の生活の記録を基に、担当者・作成者がモニタリングと原案作成を行い、それに家族の意見をプラスして関係者でカンファレンスしている。その際は、利用者が「どのように暮らしたいか、何をしたいか」、何ができるか、等を全員で話し合い、アイデアを出しながら、現状に即した、本人らしい生活に向けた介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の記録はケアプランに沿って行っており、プランに合致しないが判別しやすいようにしている。又、連絡ノートを活用し情報をスタッフ全員が共有出来る様になっている。</p>			
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>消防では避難訓練、行事時等にはボランティアを招き、教育機関では、小学生の社会体験を受け入れてます。また、近所への買い物等を通じて交流を図っている。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>グループホームに主治医がいるが、かかりつけ医や信頼関係のある主治医を希望される家族には、継続して、かかりつけ医に受診している。グループホームの主治医に関しては、月2回の定期診察以外にも、必要に応じて往診対応が可能である。</p>	<p>本人・家族の希望する医師の診察を、家族又は職員の付添で受けている。結果は受診記録に記載されている。事業所には協力医があり、月2回の定期診察以外にも、必要に応じて往診対応が可能である。本人の状態に即した診察が受けられるような体制ができています。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員を配置し介護職員と連携を図りながら、日々の健康管理を行い、体調の変化や急変があった場合には相談・指示を仰ぎながら対応できる体制を整えている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院する際には、グループホームでの生活状況を細かく記入し介護サマリーとして情報提供しています。また、1ヶ月以上の入院治療が必要になるような際にはご家族、病院と連携を取りながら今後についての支援を行っている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取りに関しての指針を定め、家族から同意をもらっている。状態の変化があるごとに、家族に気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、又、医療機関関係者と連携を図りながら、今後について検討するようになっている。	重度化した場合や看取りについては、利用開始時に、指針に基づいて丁寧に説明し同意を得ている。状態に変化がある場合は、家族の意向を踏まえて連携医師と話し合い、法人全体の連携の中で、対応を検討している。看取りの経験もある。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各マニュアルも共有し合い日々事故防止に努めている。外部より講師を招き、心肺蘇生法を習得できるよう定期的な研修を行っている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、避難経路や誘導方法の確認、消火器の使用法等を確認している。また、町内会長に参加してもらう等、徐々にではあるが、地域との協力体制を構築している。	年2回、火災を想定して、1回は隣接する同一法人の3事業所合同で消防署の協力を得、小学校や公園を避難場所にして、誘導・役割・連絡・機器活用訓練等を行っている。多層階利用者の誘導や夜間の対応について留意しながら実施している。備蓄は準備中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人に合った声がけをするようになっているが、排泄などでの他者に聞こえるような言葉かけをする時もあるので、今後は気をつけていきたい。	一人ひとりの生活歴なども踏まえながら、人格の尊重とプライバシーの確保について話し合いながら、意識を共有化している。特に、言葉使いや、トイレや入浴の際の適切でさりげない言葉掛け・支援を心がけている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付ける事なくご本人様の決定に任せている。体調面を考慮しながら、個々のペースに合わせた働きかけは常に心掛けています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	最低限やるべき業務としての職員都合がある場合もあるが、可能な限り、ご本人様のペースで柔軟に対応するように心掛けています。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝化粧水やクリーム、ひげ剃り、整髪等の身だしなみを整えている。衣類については、本人が選んで購入する機会がないので、今後そういった機会を設けていきたい。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力を見極めながら、調理や後片付け、味見など参加している。お粥や刻み食などその方にあった食事形態の提供に努めている。	3食とも、利用者の希望を開き、管理栄養士の監修を受け、職員が作成した献立を、職員と利用者が手作りしている。それを全員で楽しみ、後片付けをしている。メニューは豊富で家庭的である。体調に合わせた配慮もなされている。また、街中にある利点を活かして、外食や出前も楽しみ、行事食も設定し、食を楽しんでいる。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は事前に栄養士にチェックして頂き、定期的にアドバイスを頂いている。また、むせのある方にはとろみをつけたり、刻みで提供したりと個々に合わせ提供している。お茶や牛乳、スポーツドリンク等水分を多く取れる様工夫しています。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをして頂くよう声がけ、介助しています。義歯を使用している方には就寝前に義歯洗浄剤で洗浄を行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表で排泄のパターン確認し、行動や仕草を読み取りトイレ誘導や声がけを行っている。また、失敗しないよう座ってして頂いたり、排泄間隔がある時もさりげなく声がけしたりして、不快がないよう支援している。	皆で排泄記録を検討して、一人ひとりのパターンについて認識を共有している。適切なさりげない声掛け誘導で、日中も夜間も、出来るだけおむつ・パンツ・パットなどを少なくして、また、自分でトイレで座って行えるように支援している。効果も出ている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供したり、水分を多めに取って頂いたり、テレビ体操や散歩等の体を動かす機会も促している。それでも改善されない場合は、主治医と連携を密にしながら、服薬にて調整をしている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴拒否ある方には無理強いせずに、タイミングに合わせた声がけをしています。また入りたいと本人の希望があれば、可能な限り入浴もできるように努めている。夕食後以降の入浴はリスクやハード面を考慮して現在行っていない。	利用者の体調や希望を踏まえながら、タイミングを見て、介助職員も考慮しながら、週に2回以上入浴をできるように支援している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、寝具の工夫や清潔に心掛け、また、日中の活動を多くし、夜間安眠して頂ける様にしています。また、昼食後も個々に合わせ、昼夜逆転しない程度に休息も取り入れています。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスの無い様に薬チェック表を作り確認しながら薬の準備、服薬に対応している。薬の変更等あれば申し送りや連絡ノート等でスタッフ全員に伝えるようにしている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに役割を持って頂き、散歩や日なたぼっこ、近所への買い物などの気分転換を行っている。本人の生活歴や趣味などを把握し、何が楽しみなのか決して強要せずに個々に合わせて楽しんで頂けるようにしています。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に1度家族様参加の遠出、外出を計画、行っている。桜や紅葉の時期にはドライブ等戸外にできる機会を設けている。墓参り、帰省など家族様の協力を得ての外出や本人様希望での病院へのお見舞いなど気軽にかけられるように支援しています。	天気を見ながら、玄関前のベンチで日向ぼっこをしたり散歩をしたり、プランターに花や野菜を栽培したり、外気に触れる機会をつくっている。また、ユニット毎に、桜やもみじ、庭園の観賞にバスで出かける機会を持っている。帰宅、墓参り、外食、お見舞い等馴染みの場所を訪問できるように支援している。年1回、家族参加の旅行も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>可能な限り自己管理して頂き、買い物等や外出した時に、ご本人様に支払って頂きたいが、ほとんどの方が預かりとなっております、スタッフが支払っているのが現状です。できる方には自己管理して頂くなど今後検討していきたい。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人自ら手紙を書いたり、電話をすることはありませんが、希望があれば柔軟に対応したいです。月1回の写真付きのお便りで近況を伝えています。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>清潔に注意し、リビングには季節に合った物を飾り、ベランダにもその季節の花や野菜など取り入れ、季節を感じてもらっている。各居室も本人の使い慣れた物を置いたり本人様が過ごしやすい環境作りを心掛けている。</p>	<p>居間は南面が広く明るい。壁は季節の飾りや写真で飾られ、ベランダには花や野菜のポットがあり季節感がある。隣に和室もある。テーブルやソファでは、利用者が新聞を観たり、テレビを観たり、お話をしたり、作業を手伝ったりしている。利用者はそれぞれのライフスタイルで、ゆったりと生活している。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合った方々同士でお互いの部屋を行き来したりしながら過ごしている。ベンチに座って過ごしたり、各々が自由に過ごしている。玄関ホールにもベンチがあり外出前や外出後に気の合う方々と座って少しお話していく方もいる。</p>			
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や時計などを持ち込んで頂く様ご家族様に働きかけています。本人の状況に応じて、ベッドではなく布団で休まれる方もいます。またお位牌を持ち込まれている方もいます。</p>	<p>居室には一人ひとりの個性がある。慣れ親しんだタンス、椅子、衣装ケースやテレビが持ち込まれ、壁や枕元には家族の写真やカレンダーなどが飾れている。居心地が良さそうである。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室がわかり易いように名前をドアに張ってある。又夜間、心配で鍵を掛けて休まれる方もいれば、入り口に電気をつけて段差がわかるように利用者自身で工夫している方もいる。</p>			